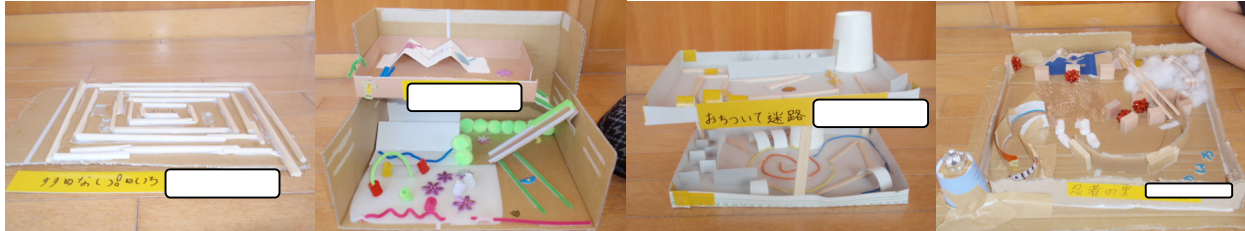


【学年】 5 年	【教科・題材】図工「ちょうせん！ビー玉めいろ」 (全6時間)
【実践内容】 ○ねらい ・ビー玉が寄り道や回り道をするよう工夫し、コースをいろいろな材料を生かしてつくることを楽しむことで、造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養う。 ○実践の概要 ☆ビー玉や材料の性質を利用して、迷路を作ることを知る。 ☆設計図を作る。必要な材料を考える。 ☆設計図に従って作品を作る。(設計図の付け足しや変更はあり) ☆作品を完成させる。 ☆迷路で遊ぶ。 知的的好奇心について もともと、絵を描くことよりも、工作活動を好む児童が多い様子であった。この題材では、ビー玉の、転がる・転がす・落ちるなどの動きを利用した迷路を作って遊ぶという見通しをもって学習活動を進めた。身近にある材料でどんな工夫ができるかというイメージをしっかりとち、作成を始めることで「工夫して迷路を作りたい」という知的的好奇心につながると考えた。そのため、身の回りにある材料でどんな工夫ができるかを提示したり、児童の発想を紹介したりするようにした。 	
【子どもの様子・反省】 ・ビー玉がどのように動くかを確かめながら制作を進められることができ、発想を膨らませる様子がみられた。(「落ちる」とい仕掛けを作り、ビー玉が落ちたあとにも新たなコースがある。「転がる」性質を利用し、割りばしや針金の幅を変えることでカーブしたり、スピードが変化したりするようにした。など) ・自分の考えた工夫に合う様々な材料を探して用意して活動を進めていた。逆に用意した材料でどのような工夫ができるかということも実際に試しながら考える様子があった。 ・貼る、切る、曲げる、支えるなど、様々な工作の技術を使うことができた。 ・友だちの作品で遊ぶ中で、「面白い」「難しい」だけでなく、「工夫」に目が向くような方法があったのではと思う。	